

「お母さんのせいきゅう書」

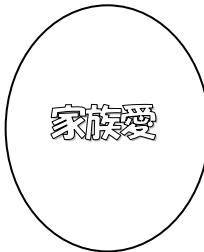
(参観のキーワード：心メーター ワークシートの活用 保護者参加型)

二分の一成人式との関連)

— 学習すること (ねらい) —

◎家族に感謝の気持ちを持ち、家族の一員としての自覚をもって、互いに助け合って、明るい家庭をつくらうとする心情を育てます。

— ねらいとする道徳的価値は —



この時期の子供たちは、具体的な生活を通して家族への感謝の気持ちを感じ始めています。しかし、それを自覚して日常の中で表現したりすることができなかつたり、時には、反抗的な態度を示してしまうこともあります。アンケートからも、自分の生活が家族によって支えられていることや、自分自身も家庭生活を支える一員であるという自覚はまだ薄い傾向にあることがうかがえます。家族が互いに敬愛の念を持ち、適切な心配りをしながら助け合って生活する態度を育てることは、社会生活を行っていく上で、他者との関わりを築く上で大変重要であり、社会や集団の一員としての素地を養う基盤となります。

自主性が増し、集団生活の中で主体的に活動することができるようになってきている時期です。家庭における重要な一員であるという自覚が必要なことを改めて問いかけていきたいと思ひます、そして、感謝の気持ちを広く深く持ち、家庭に対して自分のできることを、気持ちよく積極的に行うことの大切さに気づかせていきたいと考えています。

— この授業で使う資料について — (出典：「ゆたかな心で」小学校道徳4年 東京書籍)

本資料は、前半、たかしの「お母さんへの請求書」を母が読む場面と、後半、たかしが請求書通り五百円を手に入れるが、母からの0円の請求書を見て反省し、お金を返すと共に心からわびるという構成になっています。たかしと母親の請求書の金額の違いに着目させ、母親の優しさや深い愛情にふれて、たかしの気持ちが変化する様子をしっかりと捉えさせ、ねらいに迫っていきます。

— 学習活動と主な発問 —

1. 普段、家族のためにどんなことをしているかを発表し合う。
○普段、家族のためにどんなことをしていますか。どんな気持ちでそれをしていますか。
2. 「お母さんのせいきゅう書」を読み、登場人物と自分を重ね合わせながら考える。
○500円を受け取ったたかしはどう思ったでしょう。
○お母さんの、たかしへの請求書はいくらでしょう。
◎たかしは、どう思って泣いたのでしょうか。
3. ふだんの生活を振り返り、家族の一員としてどのように生活していくかを考える。
◇保護者に、今まで自分の子供にしてきたこと、どんな気持ちで育ててきたか、また、家族の一員として心がけてきたことを尋ねる。
◇今までの感謝の気持ちや、これから家族の一員としてどのように生活していくか、保護者へのメッセージを書く。

子供たちのこんな姿を期待します —

家族の助け合いは、社会生活の中で人間関係を築く基礎です。子供たちの、各家庭で、家族の一員としての役割は異なりますが、その役割を自覚し、果たしていくことが大切です。子供たちが、家族に対して愛情を与え、家庭を和やかにし、望ましい家庭生活を築いていく姿を期待します。